



子ども食堂 安定運営を 35団体参加しネットワーク発足

さまざまな家庭環境にある子どもたちの居場所となる「子ども食堂」を運営する県内団体が14日、一県子ども食堂・子どもの居場所ネットワークを立ち上げた。

子ども食堂を運営する団体の代表者ら5人の呼び掛けで、開設予定を含む35団体が参加。宇部市で「みんなの食堂」を運営するかねこキッズクラブの金子孝子代表が会長を務める。

山口市神田町のバルトピアやまへちで発足式があり、村岡副知事が「こども食堂応援宣言」ののほりを受け会長に手渡した。

県内では子ども食堂が増えている一方で、資金やボランティアスタッフの確保など個々の運営団体では解決が難しい共通の問題もあることから、連携して安定的な運営を目指そうと発足した。

研修会や行政への政策提言など、子ども食堂・子どもの居場所ネットワークに参加する団体の代表者ら14日、山口市

とを進める。運営団体の課題や要望を細り取りしアンケートや参加団体の交流会を予定している。

子ども食堂は県内に55カ所開設され、食料の提供や学習支援を通じて子どもたちを見守るほか、高齢者や障害者を含む地域住民の交流拠点としての役割も期待されている。(重原沙登子)

こども食堂応援宣言

「こども食堂」は、食事の提供を通じて、様々な家庭環境にある子どもたちの多様な学びや体験の場となるほか、地域での見守りの機能を果たすなど、家庭や学校に次ぐ第3の居場所となりうるものとして、重要な役割を担っています。

また、「こども食堂」の開設・運営を通じて、「こども食堂」が高齢者や障害者を含む地域住民の交流拠点に発展する可能性があるため、全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。

こうした取組が、子どもたちのより身近な場所として、更には、地域住民の交流拠点として県内各地域に広がりますよう、地域、関係団体、企業、行政など、多くの皆様方の力を結集し、全力で「こども食堂」を応援します。

令和元年10月14日

山口県知事 村岡嗣政

